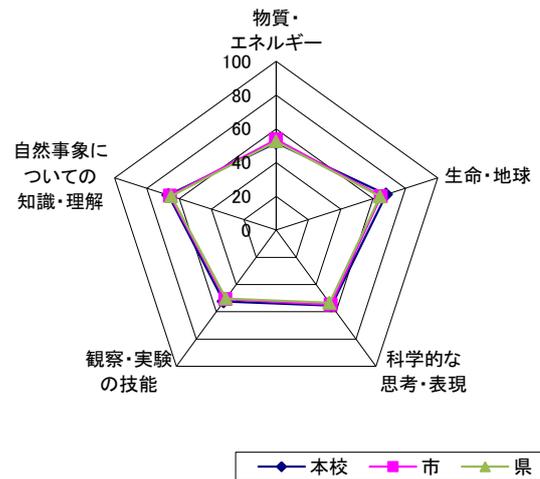


宇都宮市立峰小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	51.8	53.7	52.5
	生命・地球	68.1	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	55.4	54.7	53.4
	観察・実験の技能	52.4	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	66.7	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○閉じ込めた空気を圧したり空気を温めたりしたときに、空気の体積が変化することをよく理解していた。</p> <p>○金属は温めると体積が増加することから、コップが割れる理由を推測することがよくできていた。</p> <p>●水と温度の関係に関する事項に関して課題が残る。水が氷になるときの温度変化や、水は沸騰すると水蒸気(気体)になるという知識の定着が不十分である。</p> <p>●熱せられた空気は上昇することから、エアコンの吹き出し口は下に向けてと部屋全体が早く温まるということを推測することについて正答率が低い。</p>	<p>・既習事項の振り返りを定期的に行うことで、知識の確実な定着につなげていきたい。特に、「金属、水、空気と温度」の分野についての復習に重点をおく。</p> <p>・科学的な知識を定着させるだけでなく、日常生活における現象や課題を、学習した知識で解決していく活動を充実させることで、学習した知識をもとに考える思考の力を伸ばしていくと同時に日常生活との関連を図る。</p>
生命・地球	<p>○「天気の様子」の分野について、市や県の平均を大きく上回っている。特に、温度計の正しい使い方や、天気の様子から一日の気温の変化を推測することがよくできていた。</p> <p>○「月と星」の分野について、市や県の平均を大きく上回っている。特に、月の形の変化や、星座早見盤の使い方についてよく理解していた。</p> <p>●人の背中がまるく曲げられる理由を説明することの正答率が低かった。</p>	<p>・児童にとって身近な動植物に関する学習については、今後も学習園を活用するなどして実際に目で見たり手で触れたりする機会を重視し、さらなる知識の定着を図る。</p> <p>・実際に手にとって学習することが難しい分野(人の体や天体等)については、児童がイメージしづらく知識の定着に個人差があるので、模型やデジタル教材などの視聴覚教材を充実させることで、児童が学習課題を捉えやすい環境を作る。</p>